

施工要領書

高度処理合併浄化槽

ダイエー浄化槽

NA5型～10型



注意

この施工要領書に出てくる警告表示・留意事項の部分は、浄化槽を施工する前に必ずお読みください。

DAIE

大栄産業株式会社

《いつでも使用できるように大切に保管してください》

本書で使用しているマークは以下のような意味があります

	警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります。冒頭にまとめて記載しますので必ずお読み下さい。
	注意	取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険性及び物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載しますので必ずお読み下さい。

目次

①	施工前の注意事項	1
②	施工前の手続き等	2
	②-1 浄化槽設置申請書の種類と届出先	
	②-2 必要な書類	
	②-3 放流先の確認	
	②-4 浄化槽の選定	
③	浄化槽の部品、重量、寸法一覧	3
	③-1 部品一覧表	
	③-2 仕様、寸法一覧表	
④	施工に関する留意事項	4
⑤	標準施工	5
	⑤-1 事前調査	
	⑤-2 水盛遣方	
	⑤-3 掘削工事	
	⑤-4 ベース割栗石地業	
	⑤-5 ベース捨てコンクリート打設	
	⑤-6 ベース仮枠組	
	⑤-7 ベース配筋	
	⑤-8 ベースコンクリート打設	
	⑤-9 本体据付け（FRP本体）	
	⑤-10 水張り	
	⑤-11 山砂等による埋め戻し工事及び水締め	
	⑤-12 配管工事	
	⑤-13 空気配管工事	
	⑤-14 ブロワの据付け	
	⑤-15 上部スラブコンクリート仕上げ	
⑥	試運転	11
	⑥-1 空気配管バルブの状態確認	
	⑥-2 間欠定量移送装置・循環装置の水量確認	
	⑥-3 タイマの設定確認	
⑦	特殊な施工	14
	施工終了時チェックリスト	17

① 施工前の注意事項

次のあげる事項については、特に注意して施工して下さい。



警告

… 1) 作業中の酸欠などの事故防止

槽内に入る場合は、必ず酸素濃度・硫化水素濃度を測定し、その安全を確かめてください。

また、槽内で作業するときは、常に換気に気をつけてください。

これらの注意を怠ると、人身事故（死亡事故）の発生するおそれがあります。



注意

… 1) マンホール・点検口などからの転落・傷害事故防止

① 工事中は、必要なとき以外はマンホール・点検口などの蓋を必ず閉めてください。

② マンホール・点検口などの蓋のひび割れ・破損などを発見したら、直ちに取り替えてください。

これらの注意を怠ると、転落・傷害の生ずるおそれがあります。



注意

… 2) 感電事故防止

① アースが必要なブロワ・制御盤などには、必ずアース工事をしてください。

② ブロワの電源は、防水型コンセントをご使用ください。

これらの注意を怠ると、感電・火災の生ずるおそれがあります。



注意

… 3) 傷害事故防止

槽の吊り上げ・据え付け作業には、玉掛けを確実に実施し、槽の下には立ち入らないように、安全を十分に確認して作業してください。

これらの注意を怠ると、傷害事故の生ずるおそれがあります。



注意

… 4) 転落事故防止

据え付け後の水はり、浮上防止金具の取り付けなどの作業時は槽本体に直接のると、滑りやすく落下する危険があります。足場板などを使用し、注意して作業してください。

これらの注意を怠ると、転落事故の生ずるおそれがあります。



注意

… 5) 転落事故防止

埋設工事に際して、穴を掘った周囲には、防護さくをつくり関係者以外立ち入らないようにしてください。

これらの注意を怠ると、転落事故（傷害）の生ずるおそれがあります。

② 施工前の手続き等

※ 浄化槽を設置する場合は、浄化槽法の規定に伴い関係官庁に届出なければなりません。

②-1 浄化槽設置申請書の種類と届出先

① 確認申請書を伴う場合

建物を建築する際に、浄化槽を設置する場合は建築主事に浄化槽設置届出書を確認申請書と共に提出します。

② 汲取便所から水洗便所に改造する場合

建物の建築をともなわないで浄化槽だけを設置する場合と既設の浄化槽の構造・規模を大幅に変更する場合は、都道府県知事（保健所）に浄化槽設置届出書を提出します。

②-2 必要な書類

- ・ 浄化槽設置届
- ・ 仕様書
- ・ 委任状
- ・ 付近見取図
- ・ 建築平面図
- ・ 浄化槽の配置図
- ・ 浄化槽の構造図（型式適合認定書等）
- ・ 排水経路図

②-3 放流先の確認

放流先は暗渠であることが望ましく、開渠の側溝への放流はなるべくお避けください。また、放流先が水域である場合には設置許可のおりてない地域がありますので、事前に管轄水利組合（農業委員会・漁業組合）や保健所・土木出張所等でお調べください。農業用水路や漁業権のある地域に放流する場合には、これらの組合管理の同意を得ることが必要です。

②-4 浄化槽の選定

日本工業規格 J I S-A-3302-1988により建築物の用途に応じて処理対象人員を算出し浄化槽の大きさ（人槽）を決定して下さい。（⑥-1 参考資料参照）
（算出のわからない場合は弊社又は代理店にお問い合わせ下さい。）

③ 浄化槽の部品、重量、寸法一覧

③-1 部品一覧表

人 槽 部 品 名	5		7		10	
	荷 姿	数 量	荷 姿	数 量	荷 姿	数 量
1. 浄化槽本体	裸	1式	裸	1式	裸	1式
2. マンホールタ・ワφ450	裸	2個	裸	2個	裸	—
3. マンホールタ・ワφ600	裸	1個	裸	1個	裸	3個
4. ブロワ (間欠定量装置用)	タンポ-ル箱	1台	タンポ-ル箱	1台	タンポ-ル箱	1台
5. ブロワ (接触ばっ気用)		1台		1台		1台
6. 二方向切り替バルブ		1台				
7. ホース、ホースバンド、 塩ビ部品	各ブ-ワ タンポ-ル箱	ホ-ス4個 バンド 8個	各ブ-ワ タンポ-ル箱	ホ-ス4個 バンド 8個	各ブ-ワ タンポ-ル箱	ホ-ス4個 バンド 8個
8. ア-ス		2本		2本		2本
9. 添付書類		1式		1式		1式

③-2 仕様、寸法一覧表

	5	7	10
1. 全幅	1450	1640	1770
2. 全長	2325	2380	3000
3. 全高	1800	1910	2000
4. 流入管底	250		
5. 放流管底	450		
6. 空気口管径	VP13		
7. ブロワ (間欠定量装置用)	型式 SSL40		
8. ブロワ (接触ばっ気槽用)	型式 HP80 HPV-02	型式 HP100 HPV-02	型式 HP120 HPV-02
8. 本体目安重量	250	290	380

④ 施工に関する留意事項

浄化槽工事は、工事現場で浄化槽設備士が指導してください。

- 浄化槽の設置届けを確認してください。
- 工事施工要領書・工事仕様書、浄化槽工事の技術上の基準などの諸法令を確実に守って工事してください。工事が不完全な場合は、槽の破損による汚水漏れ・放流水の悪化などの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格を持つ、専門業者にお願いしてください。
- ブロワを設置する場合は、通気・防湿・騒音に配慮してください。
振動防止のために、基礎はコンクリート製とし、ブロワ自体の重量や振動に耐えるものとする。
据え付けコンクリート基礎は、建築物と直接繋げることなく、地盤(GL)より10cm以上高くしブロワ台の寸法より5cm大きくする。
- 工事は浄化槽の技術上の基準を守り、特に基礎工事、埋め戻し工事、上部スラブ打設などは、施工要領書に基づき正しく行なってください。
また、車両重量2tを超える車の駐車場・車庫にする場合、交通量の多い道ばたに設置する場合、近くの建築物荷重が槽本体に影響する場合、軟弱地盤に施工する場合、多雪地帯に設置する場合などは特殊工事になりますので、槽本体影響を及ぼさない補強工事を行なってください。
- 浄化槽を破損しないように埋め戻しには、つぎのような事項に注意して作業してください。
 - (1) 水張りの後に、埋め戻し作業を行なうこと。
 - (2) 埋め戻しの土は、石ころなどが混入しない砂質土を用いること。
 - (3) 埋め戻しの時に重機のバケットなどを槽に当てたり、高いところから埋め戻しの土を落とさないこと。
- 設置工事完了後は、施工終了時チェックリストで確認してください。
- 使用者に、浄化槽の保守点検業者と維持管理契約するように指導してください。
- ブロワの段ボール箱に同封してある取扱説明書、維持管理要領書及び、保証書を使用者に渡してください。
- 浄化槽の設置工事に関して不詳な点は弊社窓口にお問い合わせください。

⑤ 標準施工

⑤—1 事前調査

工事の段取りとしては、まず現場調査を行い、工事を行うための次の条件を確認して下さい。

- 設置場所の広さ 設置図面通りの広さがあるか。
- ガス管・水道管の埋設の位置 ガス管・水道管が埋設されていないか。
- 配管路の状況 浄化槽の配管経路に障害物はないか。
- 搬入・搬出の状況 浄化槽の持ち込みができるか。
- 設置場所周囲の状況 資材置場・トラック・残土の一時置場があるか。
クレーン・トラックの作業が確保できるか。
- 土質の良否及び湧水の有無 土質の状況はどうか。
湧水はあるか。
矢板など必要か。
- 工事電力・工事用水の状況 現場で電気・工事用水が調達できるか。
自然放流か、ポンプアップ放流か。

その他の確認事項として

- 関係官庁への書類の申請提出は済んでいるか。
- 浄化槽および付属部品は整っているか。
- 浄化槽の施工の際は現場ごとに標識を掲げること。

⑤—2 水盛遣方

- ① 工事に掛かる前に、設置位置の縄張りをしてスペースの確認をしてください。
- ② 工事の邪魔にならない位置に水杭を打ち込み、芯出し作業や高さのチェックに備えてください。
- ③ 設計地盤（ベンチマーク）を事前に確認してください。

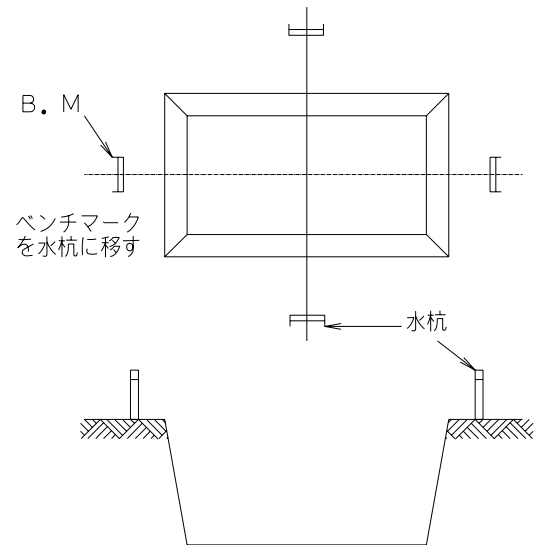


図 1

掘削工事に当っては、下記の点に特に注意してください。



警告

掘削工事を行う際は、必ず土留めを行ってください。

※これらの注意を怠ると、転落事故や土砂崩れの生ずる恐れがあります。



注意

…転落事故防止

埋設工事に際しては、穴を掘った周囲には、防護柵をつくり関係者以外立ち入らないようにしてください。

※これらの注意を怠ると、転落事故（傷害）の生ずるおそれがあります。

⑤—3 掘削工事

①掘削最小寸法

掘削最小寸法は下表の寸法を参考にしてください。

単位：mm

人槽	5	7	10
W	2,450	2,640	2,770
L	3,330	3,380	4,000
H	2,170	2,280	2,370
h 1	250	250	250
h 2	450	450	450

※掘削時には、労働安全衛生法による掘削勾配にしたがって掘削工事を行ってください。

※コンクリート厚など行政庁の指導がある場合は、指導に従ってください

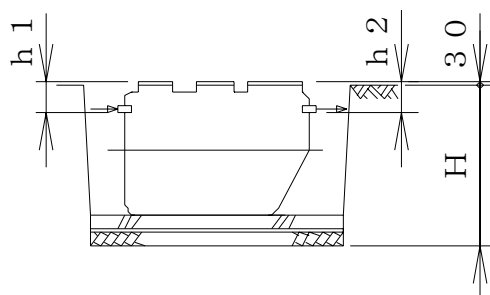
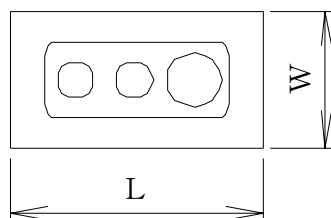


図2

⑤—4 ベース割栗石地業工事

- ① 標準工事における地耐力は、 30 kN/m^2 (3 t/m^2) 以上必要です。 30 kN/m^2 (3 t/m^2) 以下の場合、補強工事をしてください。
- ② 床付整地に時点において十分水平度を出すよう配慮します。
- ③ 割栗石または切込砕石は硬度のある均一な大きさのものを用いて敷き詰めた後、目つぶし砂利をまき、ランマーなどで十分に突固めます。通常150mmの厚みで仕上げます。

⑤—5 ベース捨てコンクリート打設

- ① 捨てコンクリートは、コンクリート強度 13.5 kN/m^2 以上のものを使用し、50mm厚に均一に仕上げます。
- ② 水準器で水平の確認をしてください。

⑤—6 ベース仮枠組

規定の寸法どおりに仮枠組をしてください。

⑤—7 ベース配筋

- ① 捨てコンクリートが固まった後、配筋のため墨出しを行います。
- ② 配筋使用は施工図に従ってください。ベース配筋は通常D13を使用し、主筋、配筋ともピッチ200の配筋とします。また、カブリ深さは60mmとします。（図3参照）

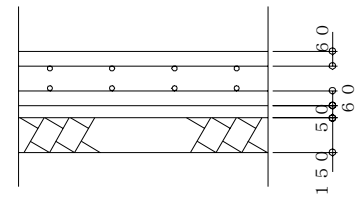


図3

⑤—8 ベースコンクリート打設

- ① 配筋後、規定寸法までベースコンクリートを200mm打ち出しします。コンクリート強度21kN/m²以上のものを用いてください。コンクリートの上面は木ゴテで押さえ、平滑に仕上げてください。
- ② コンクリート打設後、適切な養生を行ってください。
通常は、中3日経過後、槽の据え付け工事にかかります。

※原水ポンプ槽、放流ポンプ槽等を設置する場合等により基礎に高低差が生じる場合は、地盤の沈下などで槽間の位置関係に支障が生じないように連続基礎としてください。ただし、槽が近接していない場合は、各々で不同沈下等の対策をとってください。

⑤—9 本体据付（FRP本体）

本体据付に当っては、下記の点に特に注意してください。

⚠ 注意 ……傷害事故防止

槽の吊り上げ・据え付け作業には、玉賭けを確実に実施し、槽の下には立ち入らないように、安全を十分に確認して作業してください。

※これらの注意を怠ると、傷害事故の生ずるおそれがあります。

- ① 据付前に、浄化槽の確認を行ってください。
(確認事項)
 - (1) 人槽・機種の確認
 - (2) マンホール・薬筒・ブロワの付属機器の数量ならびに機種の確認FRP本体の傷や破損の有無の確認
- ② ベース表面上にある石等の突起物及びゴミ等を排除し、FRP本体の損傷がないようにします。
- ③ 槽を吊り上げるときは、必ず4点吊りにしてください。
- ④ 槽本体を流入管、放流管の位置に合わせて静かに定着させます。

- ⑤ 槽は必ず水平に据付けてください。水平勾配は1/200以下としてください。
 浄化槽が傾いていると、槽内の水の流れやばっ気などに偏りが生じ、処理機能が低下して水質が悪化する原因になります。

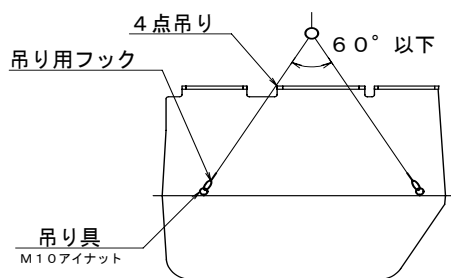


図4

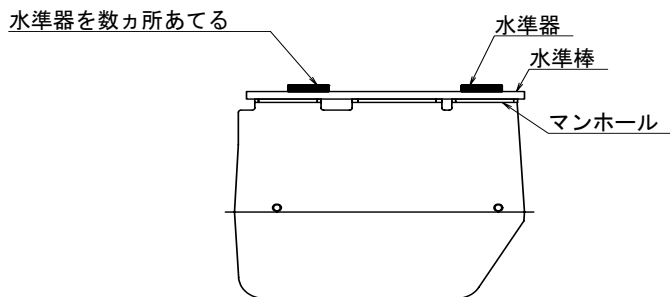


図5

⑤—10 水張り

⚠️ 注意 …転落事故防止

据え付け後の水はり、固定用（浮上防止）金具の取り付けなどの作業時に槽本体に直接乗ると、滑りやすく落下する危険があります。足場などを使用し、注意して作業してください。

※これらの注意を怠ると、転落事故の生ずるおそれがあります。

- ① 槽本体の据付が完了した後、所定の水位まで水張り（清水）を行います。
- ② 水張りは流入口より行い、嫌気濾床槽はL.W.Lまで、その他は順次オーバーフローにより、流出口までを満水とします。
- ③ 浄化槽の水平および水漏れの有無を確認してください。

⑤—11 山砂等による埋め戻し工事及び水締め

- ① 槽内に土砂が入らないように、マンホールにフタをしてください。
- ② 埋め戻しは良好な土（山砂・川砂など）を用い、大きな石・石片・木屑などが入らないようにしてください。
- ③ 埋め戻し及び水締めは3回に分けて作業します。まず、底盤から1/3の高さまで、均一に埋戻し及び水締めを行った後に、ランマーや振動プレート等につき固めてください。2回目も同様に行います。なお3回目の槽上部はランマーなどによる突固めはしないでください。
- ④ 水締めを行う時は、水がひくのを待って注入するようにしてください。また、水張りの水位以上に水締めを行うと、槽が浮上しますので注意してください。
- ⑤ 埋戻しの際に、接続配管などが破損しないように確実に固定してください。

⑤—12 配管工事

⚠ (注意) …感電事故防止

- ①アースが必要なブロワ・制御盤などには、必ずアース工事をしてください。
- ②ブロワの電源は、防水型コンセントをご使用ください。
- ※これらの注意を怠ると、感電・火災の生ずるおそれがあります。

- ① 次の配管材料を準備してください。

配管名称	流入管	臭突管	送気管
硬質塩化ビニルパイプ	VP100または VU100	VP65または VU65	VP13

- ② 起点、屈曲点、合流点には適切なマスを設置してして配管します。
浄化槽に、生活排水以外の特殊な排水や雨水は、絶対に流入させないでください。
- ③ 勾配は、1/80~1/100にして逆勾配にならないようにしてください。また、接続部の漏れがないように留意してください。

⑤—13 空気配管工事

- ① 空気配管は、ブロワまでなるべくまっすぐに配管し、曲げる場合は5ヶ所以内としてください。また、全長5m以内で配管してください。5~10mの場合は、ブロワ~浄化槽間の空気配管を径違いソケットでVP20に上げてください。
- ② NA型は、間欠定量移送装置用と散気逆洗用の2種類の配管とブロワ及び二方向切替タイマーがありますので、間違えないようにしてください。
浄化槽本体の空気配管の差込口はそれぞれ色分けされており、間欠定量移送装置用は灰色、散気逆洗用は青色となっています。また、差込口の下にラベルにて表記しています。

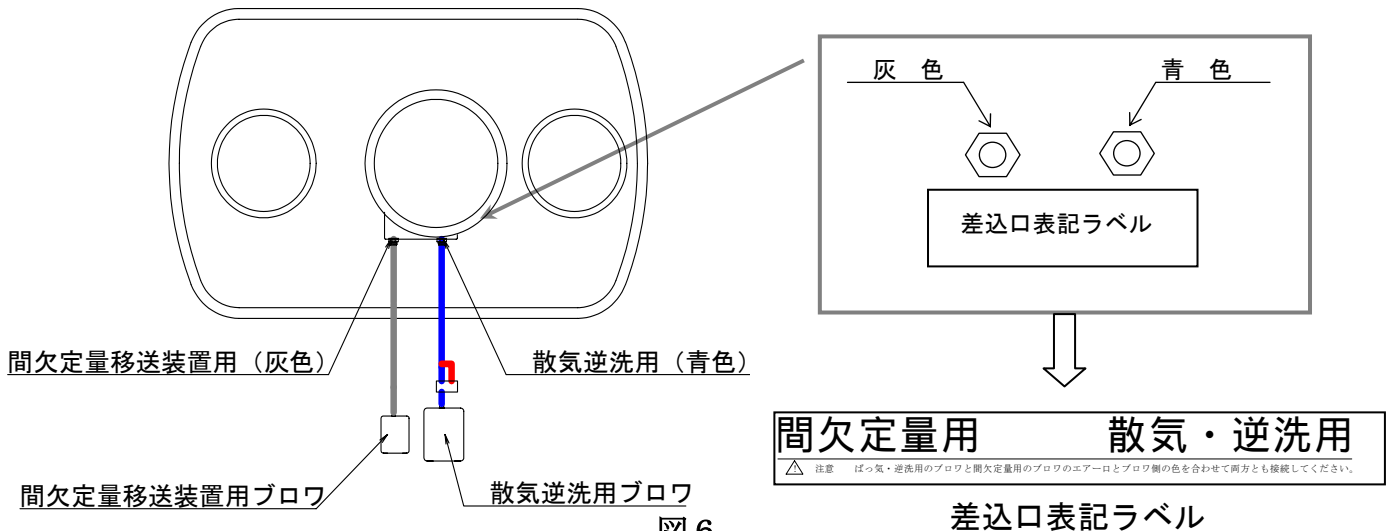


図6

⑤—14 ブロウの据付け

- ① ブロウの設置場所は、風通しの良いできるだけ日陰の場所に設置してください。
また、運転音の気になる所(寝室や応接間のそばなど)への設置はさけ、維持管理に便利なところが適当です。
- ② 接地工事(アース)は必ず行ってください。
(第3種接地工事)
- ③ 基礎はコンクリート造りとし、地上より100mm以上の高さで建物より200mm以上離してください。また、ブロウ台の外寸より50mm以上大きく仕上げてください。(図7参照)
- ④ ブロウと浄化槽を継ぐ送気管を接続します。この際必ず、接着剤を使って配管してください。
- ⑤ NA型の「散気逆洗用」のブロウは、散気用と逆洗用の2種類の吐出口があります。
ブロウの吐出口の先を付属の接続配管で結合してください。(図8参照)

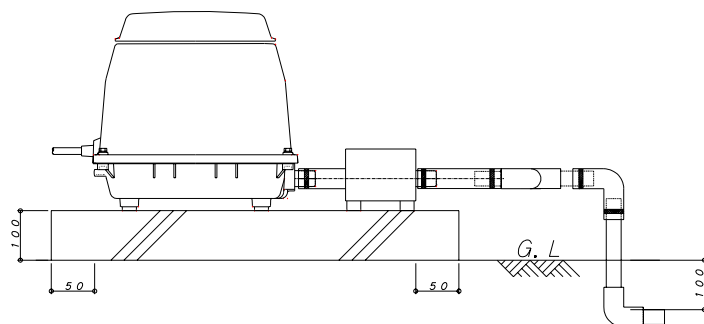


図7

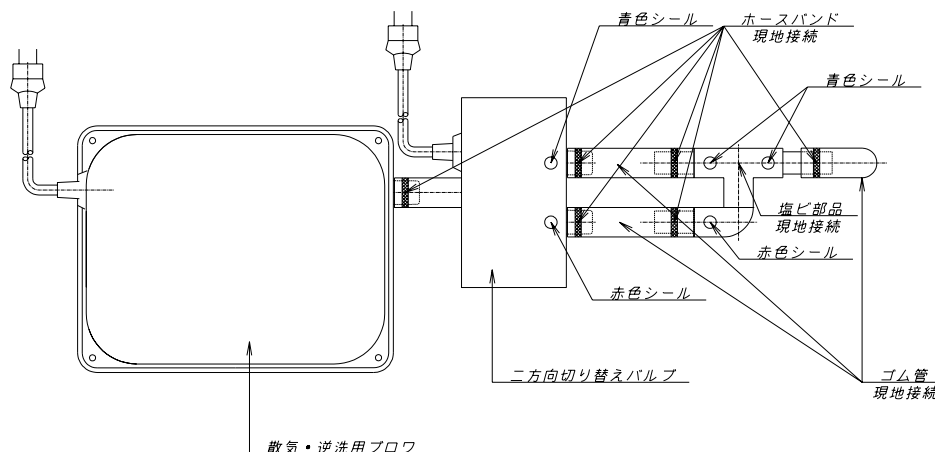


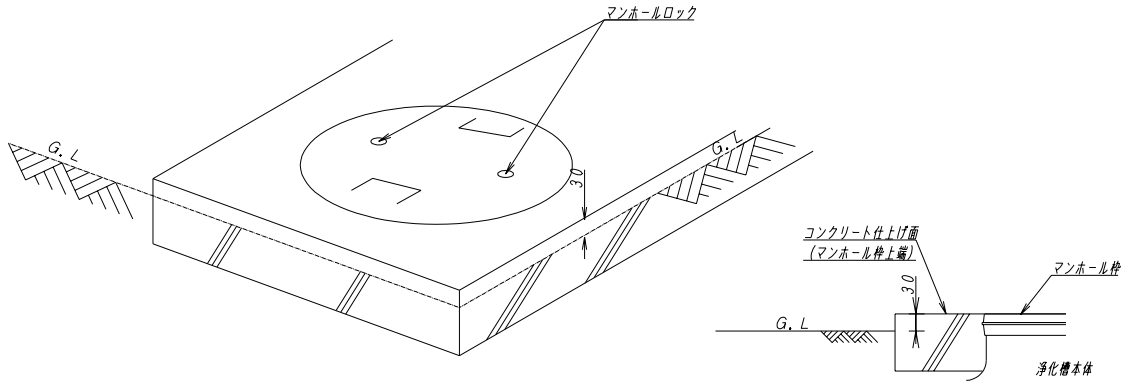
図8

- ⑥ ブロウの電気配線は100V電源よりとってください。また、容易に取りはずしできない構造としてください。(制御盤を使用する場合はグローボックスを通してください)
- ⑦ ブロウの時間設定については工場出荷時に既に設定されていますので、ブロウ内のタイマについては手を触れないでください。

※電気工事について

- 電気工事は、資格を有する専門業者によって行ってください。
- ポンプ槽等を設置する場合は、電力会社によって、進相コンデンサーの取り付けが必要な地域があります。
- 地下埋設の電気管は厚肉鋼管または、HIVEを使用してください。
- 接地工事(第D種)は必ず行ってください。
- 浄化槽内は金属を腐食させるガスが発生しますので、制御盤を使用する場合、接触部分は必ず密封してください。
- 詳しい配管については、現場配管・配線図に従ってください。

⑤—15 上部スラブコンクリート工事



- 配管及び埋戻し終了後に上部スラブコンクリート工事を行います。
- 雨水が槽内に入らないようにマンホール蓋はG.Lより30mm程度上になるよう据付けてください。

⑥ 試運転

試運転は別紙のチェックリストをもとにチェックを行ってください。また、各設備が正常に動くことを確認して工事完了とします。

主に以下の項目を確認します。

- ① 空気配管バルブの状態確認
- ② 間欠定量移送装置・循環装置の水量確認
- ③ タイマの設定確認

⑥—1 空気配管バルブの状態確認

- ① 間欠定量移送装置用と散気逆洗用のブロワのコンセントを片方ずつ外し、適切に接続されているか必ず確認してください。逆の場合は適切な配管に変更してください。
- ② バルブが以下の状態にあることを確認してください。

＜バルブの種類＞	散気用バルブ（青色）	：	三方バルブ	必要に応じ左右のバランスをとる
	循環用バルブ（灰色）	：	常時「開」	
	空気逃し用バルブ（黄色）	：	常時「開」	目盛＝70～90%
		：	常時「閉」	

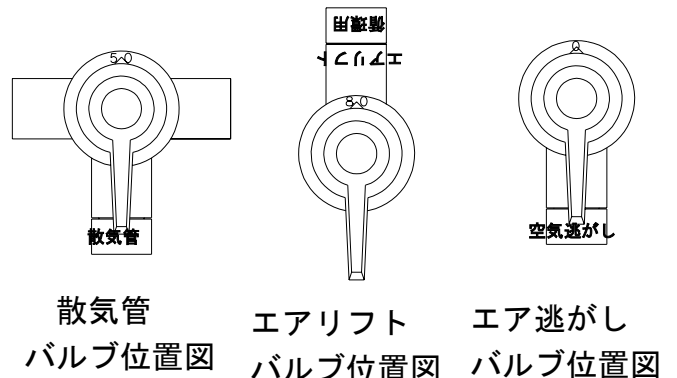
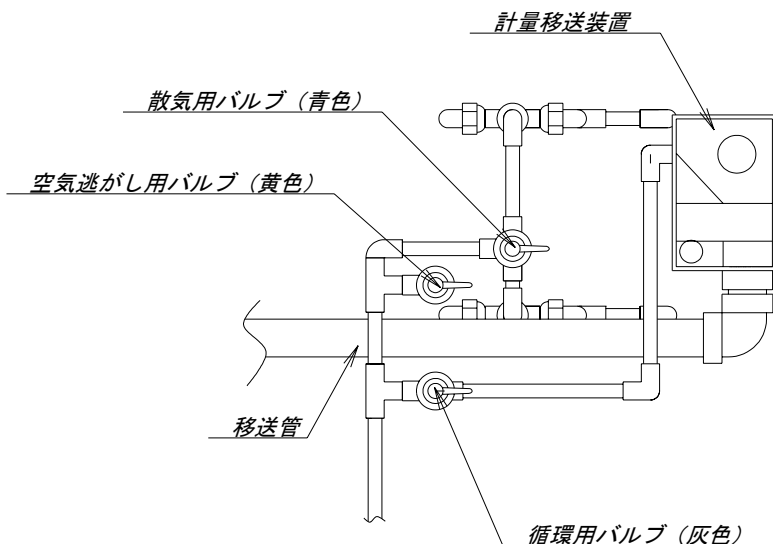


図9

⑥-2 間欠定量移送装置・循環装置の水量確認

- ① 間欠定量移送装置の調整バルブが以下の状態にあることを確認してください。
オリフィスに詰まりがないか確認します。

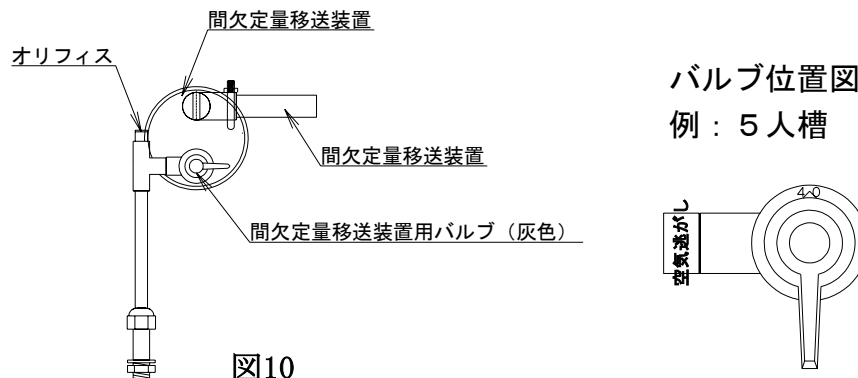


図10

人 槽 (人)	5	7	10
間欠用バルブ目盛 (%)	40	50	90

- ② 間欠定量移送装置の移送水量を実測し、以下の水量にあることを確認してください。

人 槽 (人)	5	7	10
1 サイクル水量 (ℓ) (L. W. L ~ H. W. L)	1.5		
サイクル数	2	3	5
移送水量 ^{※1} (ℓ / 分)	3	4.5	7.5

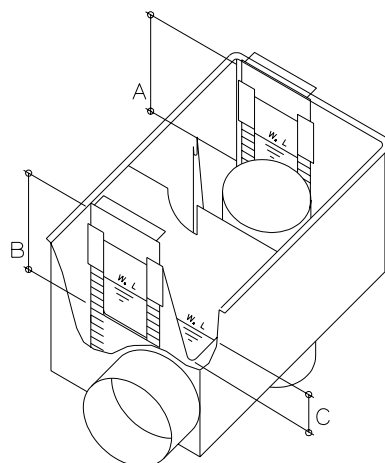
※1：実使用人員が1～4人の場合は5人槽の設定とする。

- ③ 循環水量を実測し、以下の水量にあることを確認してください。

値が異なる場合は、メイン四角ゲートおよび微調整四角ゲートで調整をしてください。

人 槽 (人)	5	7	10
循環水量 ^{※1} (ℓ / 分)	2.4	3.4	4.9

※1：実使用人員が1～4人の場合は5人槽の設定とする。循環水量は3.5Qを目安した水量です。



- A：メイン四角ゲート
- B：微調整四角ゲート
- C：60° Vノッチ

図11

⑥-3 タイマの設定確認

- ① NA型のタイマはブロワ本体のフタをはずした、ブロワ上面に取付けられています。
〔タイマ表示部・操作部の名称〕



図12

- ② 確認する項目は、現在時刻、逆洗入時刻、逆洗切時刻です。以下の方法で確認してください。
〔設定内容の確認と変更方法〕

設定内容の確認方法	タイマの設定方法
〔通常表示〕	〔現在時刻の設定〕
時刻表示部に現在時刻と逆洗回数が表示されているか確認する（通常は1回になっている）。	設定ボタンを押して「現在時刻」を表示させる。「時」「分」ボタンを押して時刻を設定する。(1分刻み)。 設定ボタンを押して、自動の表示に戻す。
〔逆洗時刻〕	〔逆洗入時刻と逆洗時間の設定〕
設定ボタンを押して、「タイマーAON」を表示させる。その際の表示時刻が「2:00」となっていることを確認する。 設定ボタンを続けて押し、「タイマーA OFF」を表示させる。その際の表示時刻が「2:05」となっていることを確認する。 設定ボタンを続けて押し、「タイマーBON」を表示させる。その際の表示時刻が「 : 」と非表示になっていることを確認する。 設定ボタンを続けて押し、「タイマーB OFF」を表示させる。その際の表示時刻が「 : 」と非表示になっていることを確認する。 設定ボタンを続け2回押し、「自動」を表示させる。	設定ボタンを押して、「タイマーAON」を表示させる。「時」「分」ボタンを押して逆洗入時刻を設定する。 設定ボタンを続けて押し、「タイマーA OFF」を表示させる。「時」「分」ボタンを押して逆洗切時刻を設定する。 設定ボタンを続けて押し、「タイマーBON」を表示させる。「時」「分」ボタンを押して2回目の逆洗入時刻を設定する。 設定ボタン続けてを押し、「タイマーB OFF」を表示させる。「時」「分」ボタンを押して2回目の逆洗切時刻を設定する。 設定ボタンを続け2回押し、「自動」を表示させる。
※上記は工場出荷時における設定。	

- ③ 逆洗の確認をします。

「手動」ボタンを押して手動逆洗を行い、計量移送装置の揚水があるか確認してください。

7 特殊な施工

①流出管が長かったり、側溝レベルが高いため、浄化槽からの放流落差が不足する場合は、本体のレベルをあげ、盛土を施して、上部の仕上げを行ってください。（図13参照）

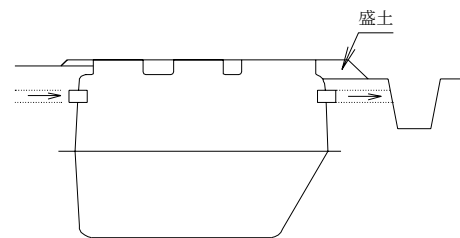


図13

②流入落差の不足する場合(笠上げ工事を必要とする場合)

(1) 嵩上げ300mm以下の場合、マンホールカラーを用いて嵩上げを行ってください。また、上部は、鉄筋コンクリート仕上げとし、荷重は、土肩で受けるようにしてください。（図14参照）

- ・ 鉄筋の径：D10
- ・ ピッチ：200mm(タテ・ヨコ共)

(2) 嵩上げが300mmを超える場合

1) 嵩上げが300mmを超える場合は、維持管理が容易に行えるように、鉄筋コンクリートのピットを浄化槽の周囲に設けてください(図15参照)

ピットの上面は、縞鋼板等で蓋をしてください。

- 2) ピット内は、排水できるよう施工してください。
- 3) ピット高さが300mmを超える場合は、浄化槽を保護するため、浄化槽の周囲にも鉄筋コンクリート製の擁壁を設けるなどしてください。

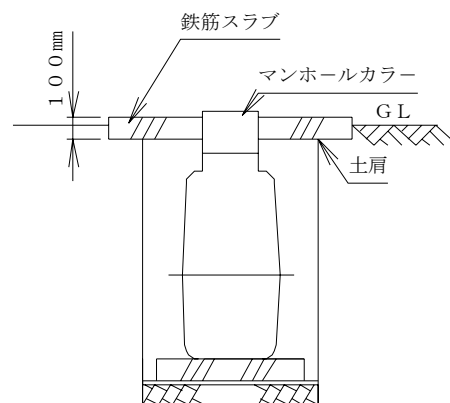


図14

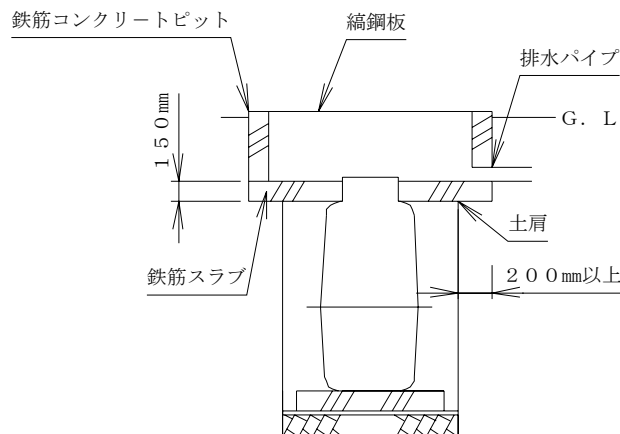


図15

(3) 車庫内に設置する場合

1) スラブは鉄筋コンクリート打ちとしてください。

- 鉄筋の径：D13
- ピッチ：200mm(タテ・ヨコ共ダブル配筋)
- スラブ厚：250mm

2) 荷重が槽に直接かからないよう支柱(φ200mm~φ300mm)を立てて支持してください。また、大型車両の通る所に設置する場合は、輪圧荷重が、浄化槽に加わらないよう、擁壁を設けてください。

3) マンホールは耐圧マンホールに取り替えてください。（標準で2tの車まで(マンホール一枚は500kg耐圧)は対応しています。)

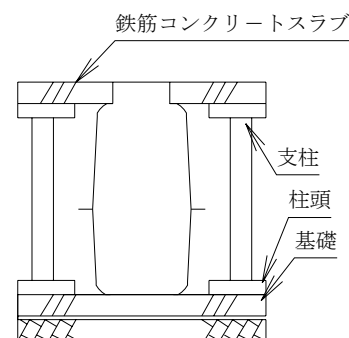


図16

(4) 荷重の大きな場所に設置する場合

1) がけ下に設置する場合

がけ下に設置する場合、浄化槽は平地に設置する場合の数倍もの土圧を受けますので、土圧が強いがけ面の側に土圧に応じた鉄筋コンクリートの擁壁を設けて土圧を遮断してください。

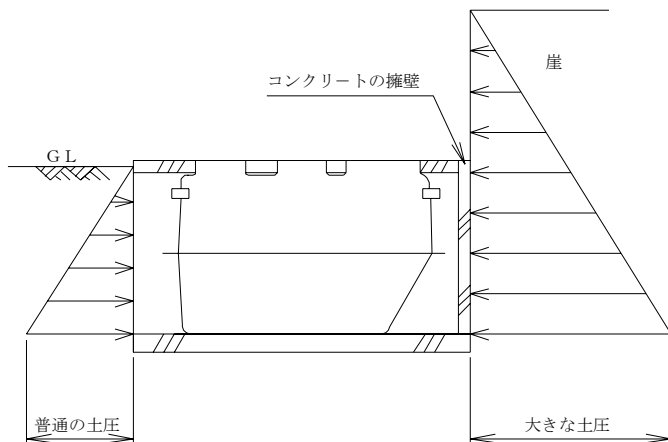


図17

2) 交通量の多い道路ばたに設置する場合

交通量の多い道路ばたに設置する場合も、1)と同様の対策をとりますが、できるだけ道路から離して、車の通行に影響のない位置への設置を心がけてください。(図19参照)

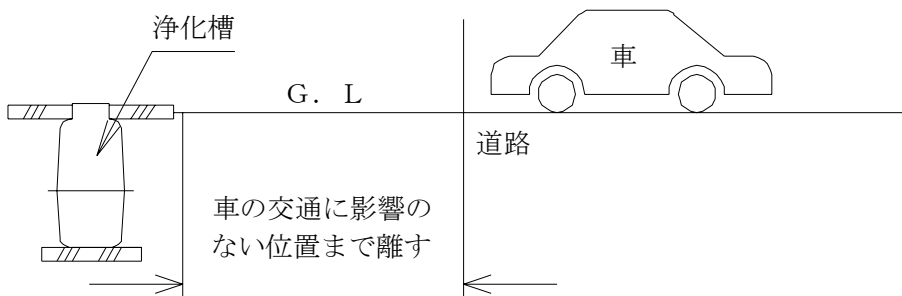


図18

3) 周囲に構造物がある場所に設置する場合

①家の基礎または、大きな建物に接して設置する場合、建物の基礎の外側から45°の線の外側に設置してください。(図20参照)

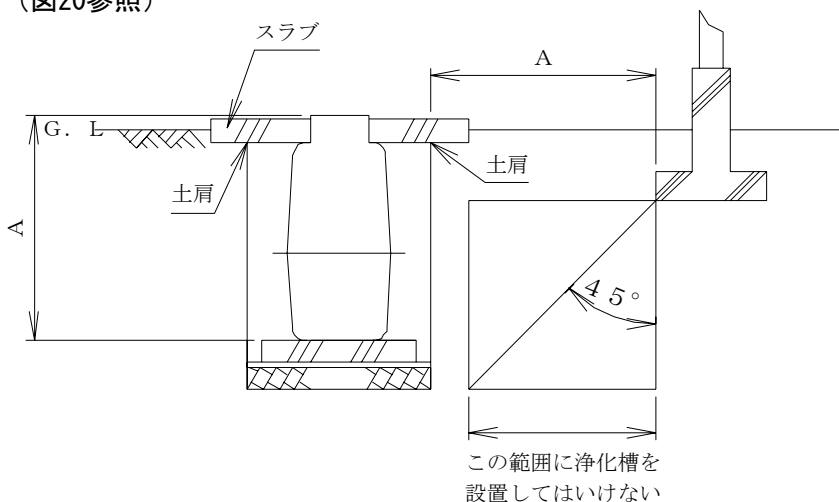


図19

②建物の基礎と離せない場合は、鉄筋コンクリートの擁壁を設けてください。

擁壁の鉄筋コンクリートの厚さ・鉄筋径・ピッチは、擁壁に作用する土圧に応じて決めてください。

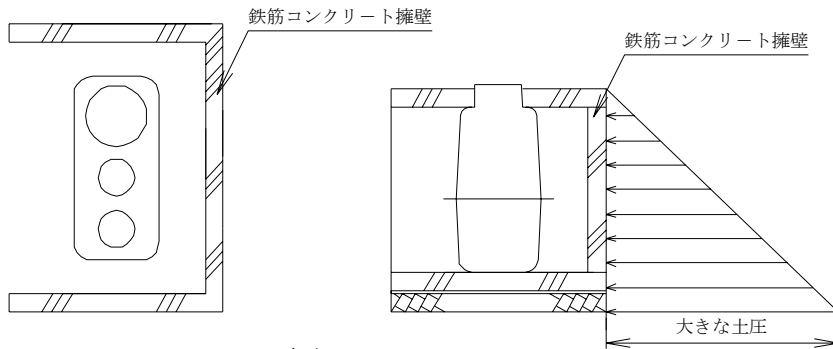


図20

(5) 寒冷地に設置する場合

1) 保温対策

槽内が凍る恐れがある場合は、水面がその地方の凍結深度以下になるように、深埋めを施してください。深埋めの方法は、嵩上げが300mmを超える場合と同様の方法により行ってください。

2) 多雪地に施工する場合

多雪地における施工については、地域によって多少の相違はありますが浄化槽の上部に屋根囲い等をして積雪により浄化槽に荷重が直接かからないように施工してください。また、多雪地ほどではない地域でも嵩上げがある場合は嵩上げによる土圧と積雪による荷重を考慮して施工してください。

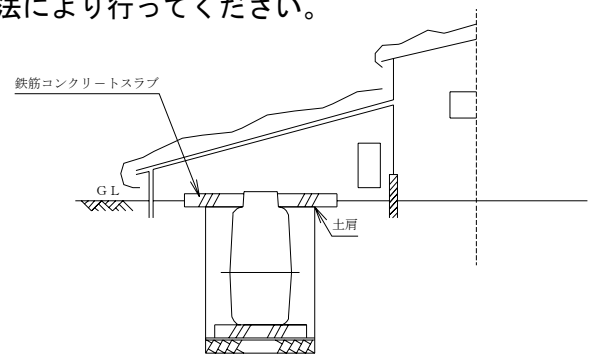


図21

(6) ポンプアップを必要とする場合

放流先の排水溝が高い場合は、ポンプアップが必要です。また、ポンプ選定に当たっては、口径40mm以上とし、揚程は、排水溝の水位高さを確認し十分な余裕を見てください。

放流ポンプは必ず2台設置し、自動交互運転、満水時同時運転が行われる様にしてください。

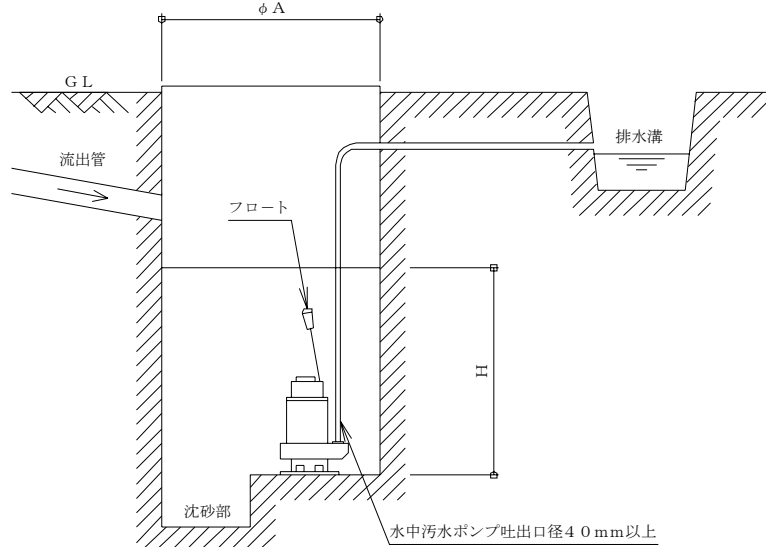


図22

●施工終了時チェックリスト

作 成		氏 名	
施 工 日 時	平成 年 月 日 時～	天 気 ・ 気 温	/ °C
施 工 業 者	(名称・氏名)	(住所)	TEL — —
設 置 年 月 日	平成 年 月 日	使用開始年月日	平成 年 月 日
処 理 方 式	流量調整型嫌気ろ床接触ばっ気循環方式	処 理 水 質	BOD10mg/ℓ 以下、T-N15 mg/ℓ
浄化槽製造業者	大栄産業株式会社	型 式	— (人槽) 型
チェック項目	細 目		チェック
流水管・放流管等の勾配	・汚物や汚水の停滞がないか		
	・勾配は1/100以上とられているか		
放流先の状況	・放流口と放流水路の水位差は適切か、逆流しないか		
誤接合等有無	・雨水や工場排水が流入していないか		
	・生活排水が全て浄化槽に接続されているか		
柵の位置及び種類	・起点・屈曲点・合流点や一定間隔毎の柵設置は適切か		
	・流入系の柵はすべてインバート柵になっているか		
	・フタは密閉型になっているか		
	・二重トラップになっていないか		
各種配管等の状況	・管の露出等により変形・破損のおそれはないか		
かさ上げの状況	・バルブの操作などの維持管理を容易に行えるか		
	・かさ上げは、30cm以内になっているか		
浄化槽本体の上部及びその周辺の状況	・保守点検・清掃が困難な場所に設置されていないか		
	・保守点検・清掃の支障となるものが置かれていないか		
	・コンクリートスラブが打たれているか		
漏水の有無	・漏水が生じていないか		
浄化槽本体の水平状況	・水平が保たれているか		
ろ材・接触材等の変形・破損・固定の状況	・ろ材や接触材に変形や破損はないか		
	・しっかり固定されているか		
タイマの設定状況	・現在時刻は合っているか		
	・逆洗時刻は「午前2時」に設定されているか		
	・逆洗時間は「5分」に設定されているか		
	・逆洗回数は「1回/日」に設定されているか		
	・自動運転に設定されているか、手動逆洗は行なえるか		
ばっ気装置・逆洗装置・定量移送装置の変形・破損・固定及び稼働の状況	・各装置に変形や破損はないか		
	・しっかり固定されているか		
	・空気の出方や流水に片寄りはないか		
	・間欠定量移送装置のオリフィスに目詰まりはないか		
間欠定量移送装置・循環装置の水量設定	・定量移送装置に揚水しているか		
	・循環用バルブ、間欠定量移送装置用バルブは浄化槽の人槽に対応する目盛位置に設定されているか		
消毒装置の変形・破損・固定の状況	・移送水量は適正量か		
	・消毒装置に変形や破損はないか		
	・しっかり固定されているか		
	・薬剤筒は傾いていないか		

ポンプ設備（流水ポンプ・放流ポンプ等）の設置 ・稼動状況	・ポンプ柵に変形や破損はないか	
	・ポンプ柵に漏水のおそれはないか	
	・ポンプが2台以上設置されているか	
	・計画どおりの能力のポンプが設置されているか	
	・ポンプの取り外しが可能か	
	・ポンプ・配管等がレベルスイッチの稼動を妨げないか	
ブロワの設置・稼動状況	・防振対策がなされているか	
	・固定が十分行われているか	
	・アースはなされているか	
	・漏電のおそれはないか	
	・散気・逆洗の配管接続は適切か	
<p>上記のとおり確認したことを証します。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p style="text-align: center;">担当浄化槽設備士 印</p> <p style="text-align: center;">（浄化槽設備士免状の交付番号 ）</p>		

アフターサービスと保証

部品の最低保有年限 5年

- (1) 保証期間
保証期間は使用開始日から起算して、本体が3年、駆動部が1年です。又、保証期間中でも有償となることがありますので、保証書をよくお読み下さい。
- (2) 部品の保有年限
部品の最低保有年限は5年です。5年以上すぎますと部品の供給が出来なくなり、商品の一式交換が必要となる場合がありますのでご了承願います。詳しくは維持管理店にご相談下さい。
- (3) 連絡
ご使用中に万一、次のような異常が発生した場合は、ご契約の維持管理店にご相談下さい。
 - ブロワが停止したとき
 - 異常音が発生しているとき
 - 臭気がひどいとき
 - 冠水したとき
 - 泡が異常に発生したとき
- (4) 浄化槽の取扱説明書を紛失・破損された場合は弊社にご連絡下さい。直ちにお送り致します。
- (5) その他不明な点は、維持管理店及び弊社までお問い合わせ下さい。

本 社	〒470-2403	愛知県知多郡美浜町大字北方字稲道11 TEL 0569-82-0338 FAX 0569-82-2114
北海道営業所	〒065-0014	北海道札幌市東区北14条東15丁目3-5STビル3F TEL 011-780-6223 FAX 011-780-6225
仙台営業所	〒983-0038	宮城県仙台市宮城野区新田2-10-38 TEL 022-239-9001 FAX 022-239-9002
関東営業所	〒346-0016	埼玉県久喜市東2-17-2 八代ビル2F TEL 0480-21-8231 FAX 0480-21-8337
千葉出張所	〒264-0025	千葉市若葉区都賀4-3-2古屋ビル2F TEL 043-214-3123
静岡営業所	〒417-0801	静岡県富士市大淵2898-1 TEL 0545-35-5783 FAX 0545-35-5784
大阪営業所	〒569-0034	大阪府高槻市大塚町1丁目15-7サニコート西口3F-C号 TEL 072-673-3202 FAX 072-673-9240
広島営業所	〒731-5136	広島県広島市佐伯区楽々園2-1-38 藤井ビル404 TEL 082-923-9988 FAX 082-923-9987
福岡営業所	〒814-0153	福岡県福岡市城南区樋井川3-19-1 TEL 092-552-4904 FAX 092-511-8122
大分出張所	〒879-7152	大分県大野郡三重町百枝字長迫1953 TEL 0974-22-8218 FAX 0974-22-8489

DAIE

大栄産業株式会社